令和8年度　第1回　地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会　議事要旨

日　　時　：令和8年7月８日（水）午後3時00分から午後4時50分まで
場　　所　：大牟田市役所北別館4階第1会議室

○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員
　　一宮委員長、富安副委員長、池上委員、河野委員、赤星委員
事務局等　：森保健福祉部長、龍保健福祉副部長、大曲保健衛生課長ほか
　　鳥村理事長、倉本副理事長、城戸理事、江川理事ほか

１　開　会

２　議事要旨

（1）評価委員会の進め方について

事務局から、資料①に基づき、今年度の評価委員会の進め方について説明を行った。

（2）法人からの報告について

法人から、資料②－１～②－５、資料③、資料④に基づき、令和7年度財務諸表等、令和7事業年度に係る業務実績報告と自己評価、第4期中期目標期間係る業務実績報告と自己評価について説明があった。

（3）令和7年度財務諸表等について

法人から説明があった令和7年度財務諸表等に対し、質疑応答がなされた。概要については次のとおり。

●MRIや電子カルテの更新による保守費用は高額と思われるが、委託料に含まれるのか。また、契約時には保守費は明記されているか。

保守料は委託料に含まれており、契約時にも明示されている。物価上昇に伴い非常に高くなってきている。また、更新等においてランニングコストも踏まえて導入検討しているが、MRI更新により令和8年度の保守料は7年度と比較して2,000万程度増加している。

●若い医師の確保の観点から、また基幹病院であることからも、投資という意味でダビンチ等高度医療機器の導入はやむを得ないと思う。

●収入以上に支出が上回る状況が続くと、財務状況は次年度も厳しくなると思われるが、今後はどのような対策を行っていくのか。

短期的には、院長を筆頭に地域のクリニックを回り、入院患者数の確保に努め、ドクターラインによる患者の受け入れや積極的な救急車の受入れに注力する。令和8年度については外部コンサルを活用し、外部からのアドバイスを受けながら収入を増やし、手元の資金を減らさない取り組みを行いたい。中期的には、新たな地域医療構想において、急性期拠点機能を担う病院としての位置付けを目指し、患者の集約化による病院運営を行っていきたいと考えている。

●全国的に急性期又は救急を扱う医療機関は増収しているが、それ以上に経費がかかっている状況にある。大牟田市立病院は支出を比較的抑えられているようだが、医業収益がそこまで増加しているわけではないのは在院日数が短くなったことが要因か。あるいは、市の人口減によるものか。

新入院患者数は、約7,000人で、昨年からあまり変わらない状況だが、在院日数が0．2日伸びたことにより、延入院患者数が約1,100人増えている。人口が減少している地域のため、新たに多くの患者数を確保するのは難しい状況であるが、可能な限り入院患者を確保しながら少しでも収入を伸ばしていく必要がある。また、優先順位をつけた費用の執行を行い、支出を抑制していく。非常に厳しい状況であるため、今後も診療報酬のプラス改定を期待するところだ。

●診療報酬改定は急性期病院に手厚くなっているが、改定から1か月だが感触としてはいかがか。

6月分の収入統計分は速報値で、昨年同月比で、入院収益が約6,500万円の増となっている。
患者数も昨年比で、新入院患者数は54名、延患者数は477名増えていることから、昨年度からの患者数の増加分で約3,000万円程度、診療報酬改定の影響としては約3,000万以上の増収となっている。今回、改定により新設された急性期病院A一般入院料で当院は算定ができたことが大きいと思われる。

●多くの病院で増加している給与費が伸びていないのはなぜか。

給与は下がってはないが、人員の減が金額の減少に繋がっている。
特に看護師が、7年度4月当初、病院が必要と見込んでいる定数より9人足りない状況が、3月末まで続いたことにより、給与費の減少になっている。

●資料②-2決算報告書の経費のところで、修繕費等の減による減少とあるが、資料③業務実績報告書においては建物の改修等が発生しているとの記載がある。内容をお尋ねしたい。

資料②-2決算報告書については当初予算と決算との比較となっており、一部予定していた修繕を行わなかったことから当初の予定に比べ経費が少し減少したと記載している。資料③業務実績報告書については6年度と7年度の決算比較であり、経費全体で約6,300万円増加している。
主な増加として、まず光熱費、燃料費が約600万円、病院建物の築年数が30年経過していることによる修繕の増加により修繕費が約1,200万円、最後に委託費が保守料や委託業務コストの増加で約3,500万円増加をしている。

(4) 令和7事業年度に係る業務実績報告について

法人から説明があった令和7事業年度に係る業務実績報告と自己評価に対し、質疑応答がなされた。概要については次のとおり。

●インシデントレポートの件数は若干少なめではないか。

昨年度1600件であり、施設規模からしても十分だと認識している。関連資料では令和5年度から6年度にかけて36%ぐらい伸び、6年度から7年度にかけても100件伸びており、順調だと思っている。

●大牟田市では医師会と大学との協議により、荒尾市内の医療機関を含めた急性心筋梗塞患者受け入れ週末輪番制が始まっている。大牟田市立病院はカテーテル検査ができる状況なので、輪番制に参加してもらいたいがどうか。

現在、カテーテル検査をできる医師が1人しかいないため、現在の体制では緊急カテーテルの対応が難しい。今後、久留米大学の循環器内科からの医師の供給状況次第で参画していきたいと思っている。

●分娩に関してこの地域で重要な役割を担っていると思うが、産婦人科医4人体制で足りているか。

今の分娩数からいけば足りている状況。

●災害等の対応について、病院としてのBCPとか作成されているか。

すでに策定を終えており、必要に応じて更新を行っていく考え。

●看護師不足が今後さらに深刻になる予測であるが、奨学金制度以外に何か対策があるのか。また、非常にコストはかかるが、紹介業者などの利用はあるのか。ある場合、どのように負担しているか。

令和7年7月まで応募がなく、看護師確保は非常に苦戦しており、月6万円の奨学金貸付制度を再開したほか、インターネットの有料求人サイト、新聞折り込み等を活用して、広く募集を周知し、1人でも多くの方の目に留まるようにしている。今年4月からの給与月額を引き上げたことにより、令和7年度下半期から順調に応募が伸びている。また、紹介等は今のところ利用していない。

●福岡県内の病院で職員によるSNSへの個人情報投稿がニュースになっていたが、職員に対する倫理研修等は実施しているか。

行っている。

●市民に信頼される病院であり続けるためにも、倫理教育をしっかり行う必要がある。

●市立病院は医師会として大変お世話になっている。救急車も快く引き受けていただいている。特に、ドクターラインは、医師会としても評判が良く、迅速に対応していただき助かっている。他ではあまりない良いシステムなので、急性期の医療に対して、ぜひ貢献していただきたい。

●看護師の確保に努力されているが、プラチナナースの方を活用した人員の確保を考えているか。

55歳以上を対象としたプラチナナースについては、60歳定年前に退職する方も増えているのでプラチナナースとしての活躍により繋ぎ止め、再雇用までの人材確保を図りたい。なお、再雇用職員は現在8名ほど外来等で勤務している。

●福岡県看護協会は、県から委託を受けてプラチナナースに関する支援事業を実施しているが、県からもプラチナナースになってから心構えとか働き方を考えてもらうのではなく、40歳ぐらいから考えてもらうことが大切だとの意見があったため、検討いただければと思う。

●(1)収益の確保において、法人の自己評価は3である。7年度の全国的な病院経営や補助金も多くない状況で大変頑張っていることを考えると評価は難しいが、赤字のため自己評価どおり3でやむを得ないというところだと考える。

●今後、看護師不足を見据えて、臨床検査技師及び臨床工学技士によるタスク・シフトの検討を行ったとあるが、実行しているか。また、臨床検査技師や診療放射線技師によるルート確保等も可能と思うが、今後、タスク・シフトを拡大していく考えがあるか。

臨床検査技師・臨床工学技士へのタスク・シフト／シェアについては実際に行っている。診療放射線技師についてはタスク・シフトの交渉をしているが、課題は多く、血管確保対応は患者さんへの穿刺を行うことになるためハードルが高いようだ。

●34ページの「市の施策への協力」について、大牟田市立病院の協力のもと、大牟田医師会が久留米大学や市内小児科各在宅医、荒尾医師会所属の小児科医の人員体制を取りながら、平日夜間の小児救急診療を行っており、非常に助かっている。自己評価は5でもよいのではないか。

●病院として、AIを活用する計画等はあるか。

8年度、国の補助金を活用したAIの活用について検討している。現段階ではRPA(現在10本)を導入して事務の効率化を行っている。

(5) 第4期中期目標期間に係る業務実績報告書について

法人から説明があった第4期中期目標期間に係る業務実績報告と自己評価に対し、質疑応答がなされた。概要については次のとおり。

法人の自己評価と同じ

審議終了後、事務局より次回委員会の予定等を報告し、会議を終了した。